



# しののめだより

令和4年度第14号  
令和4年10月28日発行  
富士東高校情報交換ひろば



10月22日(土)の学校公開は「各教科の授業」+「しののめ探究」+「校外活動ミニパネルトーク」+「部活動見学」をメニューとして開催し、中学生及び保護者の皆様、計215人に御来校いただきました。この紙面では、2年生しののめ探究「県大生講座」と「校外活動ミニパネルトーク」について紹介します。

## 「県大生講座」学生アドバイザーが自分目線で“社会課題”を語る！

自己紹介

ワークシート記入

講義

ディスカッション

質疑応答

ワークシート記入



日本の学習支援について

(食品栄養科学部 Tさん)



海外の18歳が立ち上げた海洋プラゴミ削減プロジェクトから見る、日本教育の衰退

(国際関係学部 Mさん)



ジェンダーについて

(大学院国際関係学研究科 Mさん)



仕事と家庭の両立

(経営情報学部 Kさん)



日本人とバナナ

(国際関係学部 Wさん)



アパレル産業の安物化現象について

(国際関係学部 Sさん)

## 生徒は何を学んだか？

- ・貧困は、貧しい人ではなく、貧しさから抜け出せないこと。そのような人と、学習支援を通してコミュニケーションを取る→将来の可能性が広がる
- ・貧困→勉強能力が上がらない→職業△→収入△→貧困
- ・貧困をなくすのか、豊かさの水準を下げるのか？
- ・多くの視点で物事を考える（円安が悪い影響を与えるだけではない。）
- ・疑問に思う、行動する、考える
- ・現代社会は、積極的で自発的に行動できる人物を求めている→何事も意欲的な姿勢が大切
- ・「〇〇はこうあるべき」という価値観。日本は古い価値観が他国より残っている
- ・肩書からレッテルを貼る=差別
- ・自分が差別だと思ふ言動はこれからしない
- ・いやだと言う勇気をもつ。常識を疑う
- ・育児で退職することにより非正規が増加
- ・国は制度を作っているが利用率はまちまち
- ・男女の考えの違い…子どもを諦める、制度の整っている企業に入る、結婚相手を選ぶ
- ・男性の育休のとりにくさも問題ではないか
- ・甘くておいしいバナナの裏の、残酷な側面！
- ・バナナ農家は低賃金、長時間労働
- ・AIを利用して人手を削減する→単純作業を減らす
- ・フェアトレードマークも悪用されることがある
- ・日本人はバナナ生産者の苦しみを知り、関心をもつ
- ・品質は同じ程度の服でも、付加価値で高く売られている服がある
- ・イギリスでは、H&Mで安く売っている服を買う人もいれば、15万円の服を買う層もある
- ・フェアトレードがしっかり行われるべき

## 生徒の振り返りから

- 話し方が上手で聞きやすかった。
- (学生さんは)自分たちより人生を経験していて、分かりやすく話してくれた。
- 大学生の話聞くことで視野を広げることができた。
- 自分では調べようとしなかった問題について詳しく知れたのでよかったです。
- 生かせる知識が増えました。
- 海外に行って知識と経験を積みたいです。

- 自分も変わろうと思った。行動できる人になろう。
- 自分や周りの人の考えは一人ひとりの考えであって、その考えをきちんと疑うことが大切だと知りました。どの問題も意識を変え、社会全体で取り組まないといけない。
- 負のサイクルを見つけて、そこから抜け出せるように考えていくことが大切だと分かった。
- 自分をどうしたら分析できるか？どうしたら行動できるか？思考力はどうしたら付けられるか？
- とても興味深かった。自分の探究を発展させ、大学でさらなる発見ができるかもと考えました。



## 「校外活動ミニパネルトーク」自分の目で見て、手で歩き、考える生徒たち

- ①高校生東北スタディツアー (2215 久保田かりんさん)(2318 鈴木サマタマ明さん)
- ②ドリーム・プロジェクト2022 (2239 望月郁音さん)
- ③高校生平和大使長崎派遣代表 (2323 土屋礼生さん)

### Q パネリスト4人のみなさん、お名前と、どんな活動をしたのか、教えていただけますか？

- ①静岡県ボランティア協会主催「高校生東北スタディツアー」で、夏休みに東日本大震災の被災地である岩手県に行ってきました。事前・事後活動も含め、現地やそこに住む人たちから聞き取って当時のことを知り、学び、考えています。夏休み明けに行う避難訓練の場でも、その大切さや危機感を伝えています。
- ②ドリーム・プロジェクトは、まだ進行中なのですが、静岡県が主催する、高校生が東部・中部・西部に分かれて私たちの叶えたい夢を企画するというものです。夢といっても莫大なものではなく、こんなことがしたいという自分の興味関心を深めることができるプロジェクトです。例えば好きなアーティストさんをお招きした講演会やフェスを企画するにあたり、予算100万円の中で会場費や謝礼金、広告費から会場の確保、ギャラの交渉、当日運営まで行います。そこで私たち東部チームは、静岡の中高校生が静岡の魅力にもっと気づいて、将来も地元で働いてくれるような人を増やすため、SNSを利用した魅力発信や、特産品フェアのようなイベントを計画しています。
- ③私たちは核兵器の廃絶と平和な世の中の実現を目標に今まで活動してきました。基本的には署名活動やSNSを通して情報発信してきました。また8月には全国の高校生平和大使の活動仲間が長崎に集まり、長崎でフィールドワークをしたり、被爆者の方の話の聞いたりして、歴史を学ぶことができました。

### Q 次に、参加して良かったなあ！と思うことを語ってほしいです！お願いします！

- ①岩手県のおおつち保育園の当時の様子を聞いて、先生や子ども、そして保護者それぞれの立場で、怖かっただろう、辛かっただろう、苦しかっただろうと思って心が締め付けられました。そして、私の自分の課題の答えが見えました。万が一の事態の時には、幼い子やお年寄りはもちろん、声には出せないけど困っている人を自分から見つけて、避難行動に率先して力を貸したいです。さらに「力を貸しましょう」と大きな声で周囲にも呼びかけていきたいです。こんなことができるように普段からこの考えを頭に入れて、自分の周囲で困っている人や友達を見かけたら直接力を貸したいです。こんな思いを持てたことが良かったことです。
- ②今までの地域のイベントでは、ボランティアしかやったことがありませんでした。ですからどうしたらお客さんを集めることができるのか、どのくらいの規模でこの会場なら交通アクセスが良いのかまでは考えたことがありません。初めての経験で何が正解なのかは全く分かりませんが、チームの仲間と切磋琢磨しながら考え悩むことは、これから社会に出るにあたって自分の経験値向上につながると考えています。
- ③1つ目は達成感だと思っています。活動をしていると、こんなことをやっても意味ないんじゃないか、こんなことして何になるというふうに言われることもありましたが、それでも時々かけていただける「あなた方のような高校生がいることが本当に嬉しい」というような言葉が非常に嬉しかったです。そのような言葉をいただくと、自分たちの行動が間違っていなかった、正しかった、これからは胸を張ってやっていこうと思えるようになります。また、戦争を体験した方がどんどん亡くなってきている今、私たちの役目は情報を語りつないでいくことだと思っています。活動している中で、それを果たせたいと感じられる場面も多々あります。2つ目は貴重な経験ができるということです。署名活動や20分間パワーポイントを用いて発表することなどは、普通に学生生活を送っているだけでは体験できないことです。このような活動は、社会に出た時に必ず役に立つと思っています。

### Q では、活動参加への動機はどのようなものだったのでしょうか？

- ①参加した当時、国外の大学への進学を目指していました。海外の異文化や歴史を現地で学びたいと考えていました。そこで私も、進学先で日本の歴史や伝統を伝えることができたらいいと考えていました。私の進学したい大学がある国では、地震がほぼないと言ってもいいほど少ないです。一方、皆さんご存知の通り、日本には昔から大小問わず、地震が頻繁に発生しています。日本の先人が伝えてきた地震の怖さや歴史を、地震が来ていない国にも伝えることができたらと考え、東日本大震災の被災地へ行き、被災者の方々と直接触れ合い、より生々しい事実を知ることができるこのツアーに参加しました。
- ②私の家では、正月にはお餅つき、節分には豆まきをするなど、日本の伝統行事に触れ合うことが多く、興味がありました。そこでこのため探究で、伝統文化や地域社会について探究したところ、現在伝統文化の衰退や地方の過疎化が問題となっていることが分かりました。そこで私は、大好きな日本文化が地方でも衰退しないように、地域おこしをしたいと考え、このプロジェクトに参加しました。また、異なる夢や主張をもつ高校生とチームを組んで進めるこの活動は、自分の成長にも繋がると考えたからです。
- ③私がこの活動の存在を知ったのは学校に掲示されていたポスターでした。昔から平和に対する思いがあり、生かしたいと思っていました。そして先生からこの活動をやってみないかと推薦されたため、この活動に応募することを決めました。面接・小論文・スピーチなどがある選考会を通して、ありがたいことに選んでいただきました。



### Q では、本日お集まりいただいたみなさんからの質問を受け付けたいと思います！

- ①一番印象に残ったことは？  
被災された方々が「地震が来てよかった」とおっしゃっていたことです。被災していない私たちは、災害をマイナスに捉えていることが多くあります。地震が来たことによって街の改善やボランティアの方々のつながりができた、地域の結束が強まったなど、起きてしまったことをいつまでも悲しい出来事としておくのではなく、前向きに捉え、生活スタイルを改善していくポジティブな考え方を持っていってほしいことが一番印象に残りました。
- ②やりがいがある反面、大変だと感じていることは？  
現在は特産品フェスのようなイベントを考えているため、出店して欲しいお店のアポ取りをしています。その際高校生という子供としてではなくビジネスをする相手とみなされるため、どんな利点があるのかを上手に説明できなければお店に全く話を聞いてもらえません。社会の厳しさを痛感しました。また私が電話をした店の責任者に、お店を集めてフェスを開くのは中学生でもできると言われた時には、企画の未熟さ、工夫の不足が目立ち、悔しい思いと同時に、仕事の大変さ、重要性が分かりました。また大きなプロジェクトをたった6人で回しているため、部活動や帰宅後の勉強の上での会議時間の確保は難しいと感じます。ですが人数が少ない分小回りが利くことを武器にし、活動を続けています。
- ③あなたが考える平和像は？  
私が考える平和像は、自分の行動を不当に妨げられる人々がない社会です。自分の身近には、金銭的な問題で自分のやりたいことを自由にできないような人がいました。しかし、今の世界に目を向けてみると、誰にも望まれていない戦争が行われていますが、本来やりたいことをやれる、そして望まれていないことはやられない、そういった社会であるべきだと思っています。